帝塚山大学心理科学論集　2023年　第6号 pp.19-24

特別寄稿

心理技官「はなだももぞう」の軌跡

花田　百造

編集者から「退職に当たって特別寄稿をお願いします。」という依頼をもらいました。「どんな内容でも構わない。」とのことであり，そこでいろいろと考えました。と言って大したネタはないのですが，なるべく自分の持ち味を生かそうと思いました。私は当学園では「司法・犯罪心理学」を担当していました。それまで30年余り心理技官として勤務していた刑務所や少年鑑別所など矯正施設での実務経験を生かしてほしいという要望でした。ということで授業では犯罪理論や非行の形成過程などといった犯罪研究の理論的背景やダイナミクスなどにはあまり触れずに各種の犯罪種類（窃盗，詐欺，殺人，覚せい剤乱用など・・・）とその具体例を紹介して受講生の理解を求めました。また，刑事施設における高齢者，無期刑受刑者，死刑確定者の処遇についても動画などを交えながら紹介しました。基本は心理学的な視点ですが，各犯罪種類の特殊な事情や事例個々の要素があり，一律に犯罪や非行をとらえることは誤りを犯しやすいといえます。つまり事例に即して丁寧に心理学的な背景を理解することが大事だという風に伝えられたのではないかと思うのです。

どうもこれが私の持ち味のようなので，ここではこれまでの私の「軌跡」とともに授業で紹介した事例も含め，私の活動のあらましと実務で出会った興味深い事例を差し挟んで紹介しようと思います。学術論文でも教科書（私の柄に合わない。）でもない独自の知見です。

そこで私の採用から退職までの時間軸に沿って活動や事例などを取り上げることにします。採用時にまじめな理由ははありません。臨床心理への意欲も特にありませんでした。大阪少年鑑別所から「心理学の専門職を採用したい」との求人情報が教育学の先生の方に個別にあり，私の指導教授（下河内稔先生）に「誰かいませんか？」と伝わりました。ちょうど博士後期課程（大学時代からずっとラットを対象に脳内のニューロン活動を記録して検討を加えてきました。）を修了する見込みで，博士の学位を貰えそうもないし，このまま「ポスドク」として研究生をするよりは働いた方がええんかなといった感じでした。自分が関わってきた生理心理学（行動生理学）の方法論の一つである脳波研究の権威である石原務先生が大阪少年鑑別所におられたというのも一因です。それと私の住居の岸和田市から距離が近い（堺市）のも一因でした（後から国の機関であり，全国転勤があると聞きました。）。インターネットもスマホもなく「少年鑑別所」については平凡社の百科事典で調べました。臨床心理学についても大学院受験でちょっと勉強したけど（うちの大学に臨床心理学の講座や研究室はない。）ほとんど知識はなかったのです。一方，司法や犯罪・非行の領域のことも知らなかったのですが，すべて採用されてから勉強しました。無事に所長面接もこなし，とりあえず採用が決まりました。いわゆる「on-the-job training」であり，引越の手伝いに始まり，心理検査の受検（まずは自分自身が経験する。）など勉強しながらの実務でした。初めのケースは「19歳の男子少年で覚せい剤取締法違反の暴力団関係者」でした。スーパーバイザーは石原先生が担当してくれました。私は脳波室で脳波検査の実習もしました。開閉眼，過呼吸，睡眠といった賦活法を学びました。その後，臨床検査技師でも医者でもないのに，他の鑑別技官の依頼で脳波検査を請負うようになりました（当時は無資格で脳波検査を行っていました。）。

ところで，私が大阪少年鑑別所に採用された時代（40年ほど前の昭和57年ころ）は，覚せい剤乱用の全盛期であり，少年鑑別所に入ってくる少年たちの非行名（罪名）も覚せい剤取締法違反が2～3割ぐらいを占めていました。（1位は窃盗ですが・・・）当時はシンナー吸引（有機溶剤乱用事犯）で入所する少年もいました。麻薬や大麻はなかったのですが，薬物乱用は当時の不良少年には身近な非行でした。ほとんどが所持や使用です。その分，罪悪感もあまり抱いていない少年が多かったように思います（被害者のいないことも一因ですが。）。たまには幻覚や妄想などの精神症状を示すような覚せい剤使用後あまり期間を経過していない（「とれたてのシャブ少年」と略して言う。）少年もいました。大阪少年鑑別所の場合，逮捕後72時間以内に「勾留に代わる観護の措置（観護状と呼ぶ）」により入所する少年がいました。形式的には「勾留」なので警察や検察の取り調べの対象ですが，覚せい剤使用後，比較的短期間なので精神症状の見られる場合があるのです。

当時は心理技官の研究活動についてかなり奨励・容認されていたこともあり（大阪少年鑑別所では），私は週に1度は出身大学の研究室に通わせてもらいながら，研究活動を行っていました。私は大学で生理学的心理学（行動生理学）を専攻しており，大脳生理学，脳波研究，ポリグラフなどが専門領域でしたので，覚せい剤乱用少年の脳波活動を研究対象にしました。当時は少年本人の了解を取れば自由に脳波検査をしても許されました。採用から1年間私の指導をしていただいた石原先生は脳波関係の権威でFmシータという脳波パターンを発見された有名な先生で脳波

の記録も非行少年ケースの理解やレポートの作成についても教わりました。ですが，先生は1年後に「京都医療少年院」に転勤されました。ただ，私はその後も石原先生と一緒に脳波やポリグラフの研究をしていました。さらに石原先生の共同研究先である大阪大学医学部精神科教室のスタッフも加わり，覚せい剤乱用少年の睡眠脳波を記録することに挑戦していました。大学からデータレコーダを借りて運び込み，対象者がいた場合に，職場の精神科医に連絡をして「とれたてのシャブ少年やから脳波取らしてください。それまで投薬治療は待ってください。」と頼みます。大阪大学医学部に連絡すると誰かスタッフが一人来てくれます。少年本人の了解を得た上で，晩の9時から朝の6時まで脳波，眼球運動，心電図，筋電図，呼吸曲線等を導出する準備をした上で寝かせます。その期間に低速度でデータを記録します。いわゆる「終夜睡眠ポリグラフ検査」と言います。実験者は交替で仮眠をとりました。

てなことをやっていたので…。ほんまに自由に研究させてもらいました。採用後3年目でしたが，もちろんケースを担当し，通常の鑑別業務はやっていました。配置されたところが鑑別事務係というセクションであり，ときどき事務の手伝いをしていたので，書類の整理など鑑別の流れは早めに会得することができました。

なお「終夜睡眠ポリグラフ検査」の研究仮説は以下のとおりです。

睡眠障害のひとつである「ナルコレプシー」（過眠症：日中に過度の眠気が生じるほか，入眠時に幻覚などを見る障害）では，入眠時にREM（急速眼球運動を伴う睡眠段階）睡眠が起こるという研究結果が得られています。通常，REM睡眠は入眠してしばらく経過し，睡眠段階が進んでから出現し，その際に夢を見ていると言われており，ナルコレプシーの異常なREM睡眠（Sleep Onset REM）が症状のひとつである幻覚の背景にあるのではないかとされていました。覚せい剤乱用者に特徴的な幻覚の背景にも入眠時REMというメカニズムがあるのではないかという仮説でした。この仮説を検証するために，覚せい剤乱用少年の「終夜睡眠ポリグラフ」を記録したのです。

実際に2例ほど記録しましたが，残念ながら仮説を立証するデータは得られませんでした。3例目の少年の終夜睡眠を記録し終えた日の夕方です。その少年が部屋で暴れ始めました。部屋の畳を上げ，窓ガラスを割って武器にして職員に「来るな，刺すぞ」と反抗します。完全に幻覚・妄想状態でした。錯乱は徐々に収まりましたが，被害妄想はその後も続きました。精神科医や所長や課長に叱られました。たしかに服薬治療が始まっていれば，少年は暴れることがなかったのかもしれません。所長からは「処遇の職員や医師に迷惑を掛けるような研究はやめなさい。少年にも不利益が生じるのだから。」と言われました。結局，この研究は中途半端に終わり，覚せい剤関係の知見は増えませんでした。

当時は，覚せい剤関係以外に出身大学の研究室（大阪大学人間科学部）の投石保廣先生との共同研究も行っていました。事象関連電位（Event Related Potential-ERP）に注目してオドボール課題（頻度の異なる2種類の音刺激をランダムに提示する。）を被験少年に提示し，脳波を記録してそのデータを大学のマイクロプロセッサを用いて加算平均し検討していました。その結果，いわゆるP300という陽性電位が知能指数と相関するという結果を得ました。一方，N200という陰性電位は知能とは相関はなく，むしろ年齢との緩い相関があることも判明しました。これらの知見をまとめて学術論文2本を作成しました。

採用された何年間かは職場環境に恵まれたこともあり，単なる公務員ではなく研究者としての自覚も保てました。

神戸少年鑑別所に移っても事象関連電位の研究活動は続けていましたが，結婚し，半年間の幹部研修に行ってからはデータ取得数も減少し，脳波関係の学会への参加も減りました。一方では大阪教育大学の大渕憲一先生に依頼されて非行の「中和化」傾向に関する質問紙調査に協力したことから，日本心理学会で発表もしました。いわゆる犯罪や非行の原因について緊張理論（ストレイン）よりは統制理論（コントロール）に注目するようになりました。大阪教育大学で開催されるマイノリティ研究会にも大阪拘置所の山入端津由さんや石毛博さん，京都教育大学の菊池武剋先生らとともに参加していました。徐々に，生理心理から犯罪心理に研究の対象が移ってきました。それまでは個々の事例に対して興味を持ち理解を深めようとしてきましたが，さらに犯罪や非行全般を内面の緊張（欲求不満の解消）や統制要因の形成（愛着や社会規範への認識など）といったように原因論的に捉えようとするようになりました。

2年目からは当時はまだ少なかったパソコン（三菱電機製の16ビット）が職場に導入され，所長に命令されてBASICという言語でプログラムを数本（マークカードを用いた鑑別統計や心理検査の処理システム）作りました。

では，このあたりで事例を紹介します。大阪少年鑑別所のケースです。

採用されて2年目の夏前でした。定時制高校1年の男子少年（15歳）の担当になりました。顔はのっぺりとした「へちま」のような容貌でおとなしそうな印象でした。非行内容は窃盗であり，これまで何回かつかまっており，家庭裁判所に何件かまとめて事件送致されて，観護措置となったものです。窃盗の手口は「空き巣」であり，いずれも単独での事案です。

所内生活は問題なく，職員の指示に従って生活していました。面接では悪びれたり恥ずかしがったりすることもなく，たんたんと質問に応じていました。しかし，こちらに馴染ん

でくるような人懐っこさはありません。どこか通じ合えない感覚がありました。家庭裁判所調査官からの情報によると「空き巣の件数が相当に多く，被害総額は100万円を超える。」ということでした。また，面接に連れ出した際，廊下を歩いている時に年上の女性心理技官に彼が愛想笑いをしましたが，その女性技官が「何…あの子，気持ち悪い。」と述べたのが特徴的でした。脳波検査を行い「軽度の異常波」があり，未熟性のサインでした。表面では理解できない内面の未熟さがあるのではないかと考えました。また，石原先生の後任に来られた奥野哲也先生はソンディテストの権威（大塚義孝先生の弟子で新婚旅行のついでにスイスのソンディご本人にも会いにいったとのこと）であり，当該少年のソンディテストの結果を見て，「めったにない反応である。クレプトマニア（窃盗症）かもしれない。」との所見をもらいました。IQは113で「中の上」段階でした。

面接時には，生育環境や非行（空き巣）を詳しく尋ねました。以下のとおりです。

＜家庭状況と生育環境及び非行の推移＞

実父母は少年が3歳時に離婚，その後は母親に育てられます。母親は自宅でお好み焼き屋をしていましたが，少年が小学校3年時に店にお客として来ていた男性（タクシー運転手）と再婚しました。少年は当初，母親を取られるような気がして義父になじまず「気安く僕の名前呼ばんといて。」と言って意地悪をしたこともありました。（このあたりの様子も少年はたんたんと話します。）2年後には義弟が生まれます。母親はお好み焼き屋の店をたたみ，ビデオ部品の内職をしています。義父はふだん気弱でおとなしいが，酒を飲むと陽気になり冗談ばかり言います。母親は気が強く母親が主導権を握っており，いわゆる「カカア天下」です。少年の問題行動が原因で夫婦仲は険悪になっています。

著患なく生育，活発な反面臆病なところがありました。保育園では他の園児と一緒に年上の園児をいじめていました。小学校の成績はあまり良くなかったのですが運動は得意でした。小学校2年時に友人3人と一緒に消しゴムを万引きします。小学4年時に近所の知人の家に忍び込んで単独で2万円を窃取しました。訪ねていったら誰もいなかったとのこと。おもちゃを買う金が欲しかったからだと言います。本格的な窃盗の始まりであり，これが一因で近所から排除され一家は転居します。中学1年の終わり頃から単独での窃盗（窓から侵入する空き巣狙い）を繰り返すようになりました。金銭しか盗まず，得た金はテレビゲームで費消していました。誰かに見つかったら親戚の子供のふりをします。その後，窃盗で得た金銭で友達の関心を引こうとし（友達におごる。），金を持っていることが仲間内で評判となってせびられたり，複数の同級生から集団で暴行を受けたりもしています（金を貸せと言われて出さなかったらしい。）。無断外泊も増えていきました。本人の問題行動に対し，両親は叱責を与え，父親は体罰も行いますが，効果はありません。父親からの叱責に対してはプイと無視し，殴られると泣かずにすねて自室に閉じこもるという対応です。親とは食事時だけに顔を合わすが，父親とはしゃべりません。幼稚園への忍び込みが発覚して逮捕され，複数の余罪が明るみに出て家庭裁判所に事件送致されて観護措置となって少年鑑別所に入所します。空き巣の件数や被害金額の多さなどが影響し，審判結果では初等少年院（長期処遇）送致となりました。

＜その後の経過＞

初等少年院では表裏性の大きい生活でした。表向きは職員の指示や指導に従順であり，生活態度の評価は良好でした。また，高校受験の勉強にも取り組み，在院中に全日制高校を受験して合格します。この少年院では初めての快挙であり，職員から褒められたのですが，出院後はあまり登校せず，非行（単独での空き巣）を繰り返していました。少年鑑別所の収容期間はおおむね1か月，少年院はおおむね1年，そのため何度も施設収容されると社会生活が短くなります。本少年の場合は3度にわたり少年院（初等・中等・特別）送致となりました。社会生活は短いが，その間に空き巣を繰り返しています。毎回100万円程度の被害金額となり，空き巣の手口は発展し，職業的になりました。中等少年院出院後は近所の不良年少者を手下にして窃盗団ないしは窃盗会社という形態のグループを作ります。手下にターゲットとする私鉄沿線の民家への電話や見張りなどをさせます。侵入するのは本人だけで場合によっては盗んだ金銭を独り占めします。少年院に行く前に自宅の屋根裏に100万円ほどの現金を隠しておいたところ両親に発見されました。両親は被害弁済の一部にしましたが，出院後にそれを知った少年は「うちの親に自分の金を盗まれた」と激高しました。もちろん本人が空き巣で得た金銭だったのですが・・・その後も改善せず18歳で検察官送致（大人の処分）となりました。

4年後，神戸少年鑑別所に異動します。神戸では「万引き家族」（字のとおり，親子兄弟がスーパーマーケットで万引きしていました）や15円バイクのケンちゃん（「ええバイクやなあ。買うわ。今，15円しかないのでこれ渡すから売ってなあ。」と言いながら後輩のバイクを取りあげて乗って行ってしまう尼崎の事例）などを担当します。以降は全国レベルの幹部研修（高等科研修）を受けたため，全国転勤の対象となり，法務省矯正局の意向で動かされます。

関西を離れたのは東京少年鑑別所への転勤でした。当初はカルチャーショックを感じました（「これってさあ…何とかじゃなあい」と言われると・・・）。東京少年鑑別所では「コンクリート詰め女子高生殺人事件」の容疑者の少年が入所していましたが，特に接触はありません。係長ポストになり部下や新人のスーパービジョンも多く，自分のケースは少なくなりました。印象的なのは仕事に対する認識の違いがあったことです。担当した少年が「先生（私のこと），僕は仕事が性

に合いません」と言うので「一体どんな仕事が性に合わないの？」と問うと「いや，何の仕事でもダメなんです。どうも僕は仕事をすること自体が性に合わないんです。」。私はあきれてしまいました。「遊んで暮らすのがいい。」と言うのです。親は能楽関係者でした。親の働いているところは見ていないようでした。また「前回，少年鑑別所出てから仕事していましたよ！シンナーをオロナミンCの瓶に詰める仕事です。」で私は「ちょっと待て！それってシンナーの密売の手伝いやろ。」と。東京ではいろんな仕事があるようです。当時は暴力団の資金源として新宿でシンナーのオロナミンC詰め1本1000円で売っていました。純トロ（マグロやないよ。トルエンです。）というのが「売り」でした。仙台でもずれた認識の少年がいました。家庭裁判所調査官から職業選択の決断を迫られ相談に乗ってほしいと言われました。面接時「パチンコにするかどうか迷っている。」と言うのでパチンコ店に勤務することを考えているのかと思うと「そうじゃなくてパチンコを打つ方です。」と言う。パチンコ打つのは客が遊んでいるので「仕事」ではないと口を酸っぱくして言ったのですが，本人は納得せず浸透しなかったらしく，その後，調査官の面接で「パチンコを仕事にする」と言い張ったらしいです。調査官もあきれていました。

2年後に法務省矯正局医療分類課に異動します。現場を離れ，ヒト・モノ・カネの世界です。分類係長というポストでした。少年鑑別所の鑑別業務や刑務所の分類業務（その後，処遇調査業務となる）の行政的な担当です。所長会同や各種協議会の開催と調整，局長指示の作成・起案（決済までに1か月以上掛かる。），鑑別事例集の作成業務，その他主管する通達や訓令の改正など諸々の仕事がありました。霞が関の日比谷公園のすぐそばが勤務地であり出世コースらしいのですが，別に出世したくはないし，ほんまにストレスフルで辛かったです。あまり思い出したくありません。転勤後しばらくは法務省や検察庁のビルをテレビで見るのも嫌でした。2年で勘弁してもらい，東北地方に転勤します。

山形・仙台・福島と東北の南三角形を回りました。少年鑑別所が3か所，刑務所が2か所です。初めは山形少年鑑別所，最後は福島刑務所です。階級も統括・首席・部長と上がっていきます。その分，幹部職員としての監督業務が中心となり，個々のケースと接触する機会は減少します。山形少年鑑別所は小さい施設であり，大施設と違う運営の難しさがありますが，職員のチームワークが大事です。福島少年鑑別所もそうでした（1年余り勤務しただけですが）。

刑務所の勤務は初めてでした。宮城刑務所の組織の大きさや機能の細分化，他部署とのコミュニケーションの大切さなどを感じる3年間でした。刑務所特有の言葉（スラング等）も覚えました。モタ工場（モタつく受刑者が多い生産性の低い工場），「オヤジ（いくら年が若くても自分の担当職員をオヤジと呼ぶ）」とかです。面白かったです。宮城刑務所には2度勤務しました。1回目は考査統括（処遇調査関係），2回目は分類首席でした。2回目は調査関係の領域だけでなく，仮釈放関係や釈放時保護関係の業務の総括もするようになりました。特に釈放時保護が注目され，高齢者や障害者をスムースに釈放させられるかが行政目標であり，非常勤の社会福祉士や精神保健福祉士をいかに活用するかがポイントでした。この時期に沖縄で開催された犯罪心理学会でシンポジウムを企画しました。「高齢者と犯罪」というテーマで当所の調査専門官や精神保健福祉士を参加・発表させました。また，当時，監督官庁である仙台矯正管区に勤務している心理技官や仙台少年鑑別所・宮城刑務所の心理技官と精神科医などに声を掛けて業務終了後の時間に実施するケース研究会を立ち上げました。「THE けんきゅうかい」（通称は「ザケン」です。職種に関係なく参加できるとしました。）という名称で不定期に開催しました。そのうち法務教官や刑務官など心理技官以外の職種の参加も増えました。私の福島への転勤と同時に店じまいしました。

東北地方での経験からいくつかの事例を紹介します。

＜ピンポンダッシュの延長として＞

小学生のいたずらの一種として「ピンポンダッシュ」があります。民家のドアチャイムを押してピンポンと鳴らし，すぐにその場を離れて見つからないように様子をうかがい，誰もいないので困惑する住民を見て楽しむという迷惑な行為です。実はその延長と考えられるような非行や犯罪があります。宮城や山形で接したケースです。宮城のケースは列車の踏切の非常通報装置のスイッチを押して，近くの小山に登り鉄道職員や警察官がやってくるのを見ながら楽しんだ少年のグループでした。一種の度胸試しみたいな意味もあります。すぐに見つかって，スイッチを押した主犯少年は「威力業務妨害」として検挙されました。「ピンポンダッシュ」そのままの事件だと言えます。

山形のケースはより深刻です。子供のころから警察署や消防署にいたずら電話を掛けていた少年で，すべて単独での事犯です。その後，少年鑑別所にも弁護士を装って電話してきます。そのころはまだ携帯電話は普及しておらず，電話の相手を確認する手段は限られています。少年鑑別所に掛かってきた電話は相手の名前を確認し，弁護士リストでかけ戻して偽者だとわかりました。その後も弁護士を騙って一般人を勧誘し，金銭をだまし取ったという詐欺事件で検挙されました。自宅の電話番号を弁護士事務所の電話番号として広告を出したり相手（依頼人）に会ったりします。本格的な詐欺で「ピンポンダッシュ」からかなりかけ離れていますが，本人との面接で「騙された相手」のことを面白おかしく話す本人（顔を真っ赤にして）の歪んだ欲求や快楽を理解すると，同種の快楽（他者が騙されるのを見るのが

とても面白い。）があるのだと思います。少年は中等少年院送致（長期処遇）となりました。

次は宮城の大学生（19歳）で統合失調症を発症していました（仙台少年鑑別所の精神科医が診断しました。）。インターネットの2チャンネルにはまり，アニメ関係のスレッドに書き込むようになります。自分の好きなキャラを馬鹿にされたのがきっかけとなって，不満解消のため自分の出身中学の生徒を襲うという書き込みをしました。警察などが動き「威力業務妨害」として検挙されます。周囲が騒ぐ面白さや快楽よりも「ピンポンダッシュ」の匿名性や感情発散の方が影響した事案であると思われます。欲求統制が破綻してしまい，その後も同様の事案を繰り返し，安定した治療環境を得て改善を行うことを目的として医療少年院送致となりました。

もう1例は宮城刑務所で10年余り服役していた33歳の受刑者です。事案は鉄道の線路に置き石をしたものです。線路に小さい物（10円玉とか針金とか・・・）を置いて列車が通るとぺしゃんこになるという遊びは小学生とかがやらなくはない（線路の近くに住居があれば・・・）と思いますが，本人の場合は置く石がだんだんと大きくなっていきます。置き石が小さい間は列車が跳ね飛ばして事なきを得ました。しかし，それでは物足りなくなって大きい石を置くようになると危険な状況になります。一方，本人は列車の一番前に乗り込んで石がどうなるかを観察しているのです。ほとんど理科の実験みたいです。列車が脱線するとか怪我人や死者が出るといった危険に対する認識は本人にはありません。それどころか一番前に乗っている自分自身に危害が及ぶという認識もないわけです。本人は対人関係が維持できないとか通常ではないこだわり（興味や関心の狭小さなど）があり，アスペルガー障害の疑いが強い人格でした。特徴的な言動が多かったのですが，20年ほど前の刑確定当時はまだ発達障害の知見が少なく，問題性の把握が十分ではなかったと思われます。所内生活で対人関係の持ち方が改善し，仮釈放によって退所しましたが，面接等を繰り返した私に対する不満（花田先生は医者でもないのに私をアスペルガー障害であるとし，嫌味を言われた。）を出所時のコメントに記載して出所しました（私は嫌味など言っていません・・・多分・・つもりです。）。

仙台少年鑑別所では，家庭裁判所に出頭した際に暴れ出しリストカットをして担架でぐるぐる巻きにされて入所した少年（その日のうちに刑務所職員の応援を得て精神病院に入院させた。）や少年院で金づちで職員を殴打して殺人未遂で入所し，その後「鑑定留置」となり，所内で自殺未遂を図った事例（愛着障害の診断名で医療少年院送致となり，雪嵐の日に私が護送の監督責任者として東京まで護送車で送りましたが，途中，高速道路が閉鎖になり往生しました。）

当時は首席専門官というポストであり，心理学の専門家というよりも保安や警備の責任者です（そういうポストです。心理技官は片手間です。）。このように保安上大変な事例が入所してくると精神的なストレスは大きくなります。

最後は，福島刑務所で出会った事案であり，55歳の男性受刑者で刑務所生活は6回目です。1回だけが「居直り強盗」でその他は窃盗（空き巣）でいわゆる常習累犯窃盗です。空き巣は利欲が動機であることに加え，常習化・職業化しやすいという特徴があります。本事例は20歳過ぎからギャンブル（パチンコやボートレースなど）に狂い，仕事が持続せずに怠惰な生活を送ってきました。初めての空き巣は友人宅での機会的な犯行でしたが，その後，徐々に常習化しました。親や兄弟からも愛想を尽かされます。最近はパンティストッキングをかぶって犯行を繰り返していました。分類教育部長となっていたわたしは刑務所での処遇審査会（本人を連行して幹部職員に面接させて所内での作業を決める会議です。）を仕切る議長として本人に質問しました。そのやりとりです。

わたし：ところであなたはパンストをかぶって空き巣に行くそうだがなぜか？
本　人：わたしは人を傷つけたくないのです（胸を張って得意そうに答える。）。
わたし：へー。パンストでなくちゃいけないのか？
本　人：そのとおりです。見られても顔がわからないから安心です。以前に顔を見られて相手に暴力をふるって強盗になったことがあったのです。人を傷つけるのは嫌なのです。パンストにエッチな意味はありませんよ（再び胸を張る。）。
わたし：なあるほど。理由はわかったけど，まずは空き巣やめなあかんのんとちゃう？

事例として紹介した「パンストをかぶった空き巣」もそうですが，もとは知人が留守中に金銭を窃取したのが初めてだったとのことです。一種の知人盗ですが（窃盗の中で万引きや知人盗はハードルが低いとされる。）発覚しなかったことで罪悪感が喚起されずに経過します。もし発覚していたら知人に謝罪して自分の行動を反省し罪悪感を確認したでしょう（もちろん発覚しても「しら」を切ってごまかしたかも知れませんが・・・）。多分，このあたりが分かれ目だったと思われます。本人は思い出せないと言い，推移は明確ではありませんが，その後は空き巣に発展し，金に困ると空き巣を繰り返すようになります。5度にわたる受刑生活も改善の契機になりません。親兄弟も引き受けを拒否します。ギャンブルなど遊興志向の強い生活態度から逃れられず目先の楽しみを優先します。極めて短い時間的展望しか持てないのです。「パンスト」も特徴的ですが，本人からは一種の「誇り」

のようなものを感じました。窃盗に着手する時にパンストをかぶるのだそうです。すると「勇気が湧いてくる」「自分が強くなった気がする」のです。いわばパンストかぶることが「変身願望」や「ウルトラマンか仮面ライダーにでもなった感覚」につながることがうかがえました。しかも一種のプロ意識もあったようです（本人は言いませんが。）。「おれは盗みの職人（プロフェッショナル）だ。」といった感覚です。膨らんだ自己顕示性とパンストが「もう後戻りできない」という思いを強化します。そして「私は人を傷つけたくないのです。」と胸を張って言うのです。しかし，身体的には他人を傷付けないのですが，もともと「他人の物を盗む」ということが他者を傷付けることだということを本人は失念しているのです。大事なものが抜けているのです。改善の難しい事例であると実感しました。

奇しくも最初と最後は「空き巣（住居侵入盗）」を紹介することになりました。個人的見解ですが「空き巣」と「詐欺」が心理学的に興味深いと思います。やっぱりケースを理解するのはおもしろい。これまで出会った非行少年や受刑者には教えられることが多くありました。みんなに深く感謝して「はなだももぞうの軌跡」（転がる石のような）を終了します。